

668

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始



此名在奉天

法學士矢部克巳講述

民法總論

上下

中央大學十年度講義

14-668

緒論

第一章 民法ノ觀念

第一 民法ノ諸源

民法ハ諸國羅馬ノ市民法ニ由來スル市民法ハ羅馬ノ市民ノミニ適用
 ナルモモシテ他國人民ニ對シテハ之ヲ適用ス他國人民ノ訴訟ニ對
 件ニ付テハ裁判官ハ他國人民ノ普通人情ニ適合スト見認タル慣例
 シカキテ裁判官ナセリテノ慣習法ヲ万民法ト稱ス羅馬ノ後代ニ至
 タリテ漸次以テ之ヲ區別シテ至リト云フモ市民法ハ諸國ノ後
 毛ニ適用セラレテ中古歐洲各口ニ於テ羅馬法ヲ繼承スルヤ市民法ハ
 公認シタル私法ヲ意味スル諸トナリ更ニ特別私法タル商法ニ對シ
 テ一般私法ヲ指ス諸トナリテノ諸ニ該多シ民法ナル諸ハ其譯諸ナ

第二章 民法ノ定義

民法ハ普通私法ノ原則ヲ定ムルモノナリ民法ハ法ナリ人類共存ノ結果ト
 シテ生存競争ノ生ズルハ自然ノ理ナリ法ハ其ノ相互ノ關係ヲ定ムル規則

10 10 21
 四六

ニテ行爲ノ想ニ施ナリ從テ法ニ本質ハ命令ニシテ許容ヨリナル其レ法ハ行爲
ノ想ニ施ナル以テ其内容ニ於テ命令ヲ包含セザルハ當然ナリ而シ
其各人相互ノ關係ヲ規律スル命令ニシテ行爲ノ想ニ施ナリタル各人各自カ自己ノ利
益ヲ主張シ以テ限界ヲ見認ハルベカラズ之レ即チ法ノ許可ナリトスル法
ト今レクテ道徳モ行爲ノ想ニシテ其法ト道徳ト其命令内容ヨリ異ラス
道徳ノ命令ハ内心ニシテ行爲ノ想ニシテ其行爲ヲ求ムルニシテ而シテ法ノ命
令ハ外形上ノ行爲ヲ求ムルニシテ其行爲ヲ求ムルニシテ而シテ法ノ命令ハ
レリトシ内心ハ法ノ命令ニシテ而シテ其行爲ヲ求ムルニシテ而シテ法ノ命令ハ
共同生活團體ノ意思ニ出ズト異モ之ヲ違背スルハ之ヲ各人ノ良
心ノ判断ニマカス而シテ法ノ絕對ノ遵守ヲ命令シ判断ノ余裕ヲ不
ヘズ最後ニ道徳ハ之レヲ認識シ且遵守セザルハ外形上ニシテ強
制スル事ナシト云モ法ハ其違反者ニ對シテ強制力ヲ有スルヲ常トスル
ハ共同生活團體ノ意思ニ其本質ナク命令ニシテ許容ヲ内容ニシテ
ルカ故ニ其意思ニ其本質ナク命令ニシテ許容ヲ内容ニシテ許容ヲ内容ニシテ
オスルハ之ヲ命令ニシテ其本質ニシテ許容ヲ内容ニシテ許容ヲ内容ニシテ

ノ動機ニシテスルカサリナリ而シテ法ハ何人ノ意思ニシテニシテ一ハ口邊ノ意思
ナリトス而シテ其口邊ノ意思ニシテ法ノ上ニシテ見ルハ法ノ口邊ノ意思ニシテ
一共同生活團體ノ意思ニシテ出スルニシテ一法ノ口邊ノ意思ニシテ
ノ意思ニシテ表現ナシタルニシテ其ノ表現ノ方法ヨリシテ或ハ法ハ口邊
トシテ表現ナシタル

二、民法ハ私法ナリ

法律ニシテ私法トシテ命令トシテ人々ニ對シテ其ノ權利義務ニシテ其ノ權利義務ニシテ

- 一、法ノ保護ヲカントスル利益ニシテ區別スル説
 - 二、法規ヲカントスル法律關係ヲ推シテ其ノ關係ニシテ區別スル説
 - 三、其法律關係ノ主体カ其口邊ノ意思ニシテ其ノ共同生活ニシテ區別スル説
 - 四、統制權ノ行使ノ關係ニシテ其ノ共同生活ニシテ其ノ共同生活ニシテ區別スル説
 - 五、其ノ區別スル説ニシテ其ノ共同生活ニシテ其ノ共同生活ニシテ區別スル説
- 權ノ行使ノ關係ニシテ其ノ共同生活ニシテ其ノ共同生活ニシテ區別スル説
權又民法ハ以テ其ノ共同生活ニシテ其ノ共同生活ニシテ區別スル説

三 民法ハ普通私法ナリ

多シテ通用ナルモ区域ハ若シクハ法ノ制定スル事際カ一般則チハ之レヲ普通法トモ限定セラルル区域特別ノ人若ハ特別ノ事際ナリトハ之レヲ特別法トモフ故ニ以テ區別ハ相對的ノモノトス 民法ハ一般生活關係ヲ定ムル事ヲ目的トシテ商事ノ適用ナルモ商法ニ對シテ普通私法モ關係ナリ

四 民法ハ私法ノ原則ヲ定ムル法ナリ

法律關係自作ノ同之ル法據言スルモ法律效果ノ存否ヲ定ムル法ハ之レヲ實體法トモ云ヒ其ノ法律效果ノ實現ノ為ニサレハ行為ニ關シテ法ハ之レヲ手續法トモ云ヒ民法ハ各人ノ生活關係自作ヲ規律スル法據言スルモ生活關係ニ對シテ適用サレズヤ原則ヲ定ムル事ニ於テ實體法ニ屬スニ從テ其法律效果ノ賦否レハ法律效果ヲ實現スルニ爲ニサレハ手續法ニ屬スル如キハ民法ヲ包含セラレタリ民法ハ生活關係自作ヲ規律スル法據言スルモ各人ノ任意法ナリ而シテ其公序良俗ノ維持精神狀態ノ不完全ナルモノ保護取引ノ安固ノ家庭ノ平和トノ特別ノ事由ニ其各人ノ自由ヲ要スルモノ治テ左存スルモノヲ許サレズヤ然レバ以テ種ノ法規ハ

之レヲ強行法ト云フ

第三 民法ノ法源

民法ハ諸人ニ關シテ其意義ヲ有スル實質上ノ意義及形式上ノ意義之ナリ前者ハ民法典其ノ他普通私法ニ屬スルモノヲ指シ後者ハ民法典ノミテ意義之民法ノ法源トシテ實質上ノ民法法源カ抽出サルノ手續ヲ得テ制定セラルル法ニシテ或文法ト云フ民法典及教多ク民法法源之レニ屬ス其ノ他公共團體ノ自治法規及條約法トモ并成文法トシテ民法ノ法源ナリ慣習法ハ慣習多ク事實ニシテ法律ナルカ力ヲ有スルモノヲ云フ慣習法ハ實質上ノ要件トシテ人慣習カ各一形式ニ於テ永年繼續シテ地方ハ階級間ニ一級別ニ行ハレ而シテ其慣習人支配スルカヤ人民間ニ於テ之ニ對東力ヲ見認ルルニ法則意義由リ存スルモノヲ要ス而シテ斯クノ如キ慣習カ慣習法トシテ如何ナル範圍ニ於テ民法ノ法源ナリヤニテ人法例第二章ニ之ヲ定ムルモノ今第二章ニ依ル公秩序亦ハ善良ノ風俗

上明白ナル一「實ナレ共明治維新以後西洋文物ノ輸入ト共ニ從來ノ
法律ノ總統ハ断絶セシメテ西洋諸國ノ民法ニ倣ヒ民法典
ヲ篇算スルニ至レリ今其ノ沿革ヲ見ルニ初メ政府ハ「ポアンナード氏
ヲ以テ佛口民法ニ倣ヒ民法草案ヲ作ラシム人事、財産、取得債
權担保、証據ノ五篇ヨリナル明治三十三年公布シテ全廿六年一
月一日期シ之ニシテ實ニ總統ニシテ世論ノ延期ニ多クイタル
為全廿九年十二月三十日ニテ延期トナレリ次ニ法典調査會
開カレ新民法ノ起草ニ從テ「大明治廿九年總則、物權、債權
編、全三十一年新法及相續編、三十三年明治三十一年首十百
ヨリ施行セラルリ此ハ民法編別法ニナリ羅馬武編別法及
佛口武編別法之ナリ羅馬武編別法ハ「カイウス氏ノ著書及
「ユステルニアン帝ノ「インスライテユト」ニ定ハタル分類法ニ出ズ法ヲ
分チテ人丁編、財產編及訴訟編ノ三トナスニテ佛口民法ノ編別
法ハ多クナレラ「古及更ハタルモノナリトス佛口武編別法ハ近世佛口ニ
シテ行ハルモノニテ「素條民法」ニ好クナレラ採用シ佛口帝口民法ハ

之ニ從テ此ノ方法ハ民法ヲ分チテ總則、物權、債權、親族及相續ノ
五篇トナスニテ「我民法ハ此ノ編別法ニ從テ民法典ノ規定「了限」之ニテ
大別シテ二人支即チ物時規定及人時規定之ナリ前者ハ主トシテ「財
產」ノ項可定ム物權編乃債權編之ナリ後者ハ主トシテ「身分」ノ項
可定ム親族及相續編之ナリ而シテ此ノ兩規定ニ共ニ通「了限」之ニ
テ總則編ニ納ム

第一二章 民法ノ効力
第一節 一時ニテスル効力

法ハ其業生ノ時ヨリ其廢止ノトモテ「ニ業生セル法律同條ニ支配スル
了限」ノ疑又ハ「法ハ其業生前ニ成立シタル法律同條ニ對シテモ亦通用
サル」アリヤ「權言」スレバ旧時代ニ成立シテ新法實施ノ時尙存續セル
法律同條ニ對シテモ新法が通用サル「了限」アリヤ之レ法ノ溯及力ノ問題ニ
シテ立法者ノ意思ニ依リテ之レヲ解決スベキモノトス即チ溯及力ヲ
与フル立法者ノ意思が法自身ニ於テ見認メ得キヤ時ハ法ハ其ノ
業生前ニ成立セル法律同條ニ對シテモ之レヲ通用スル「了限」ヲ得キ

レト長毛而ル場合ハ其後ニ成立シタル法律関係ニ対シテ
ノ之適用セザルベク其ノ之レヲ法ハ適用及ノ原則トスル民法ハ其ノ施行前ニ
生シタル一限ニ付テハ別段ノ規定アル場合を除ク他民法ノ規定ヲモス
ナリテ例外ノ場合ヲ除キ適及力ヲ有セザルナリ而シテ其例外ノ場合
ハ民法施行法ニテ之ヲ定ムルハ其施行ノ日ヨリ明記
三十一年七月十六日以後ニ成立シタル法律関係ニ適用セザルナリ
只例外トスル其以前ニ成立シタル一限モ適用セザルナリ

其二ノ人及ビ事ニ関スル効力

一〇ノ法令ハ其ノ口ノ臣民及領土ニ対シテ適用サルハ原則トス故
ニ民法ハ日本臣民ニ対シテ其自口ノ領土内ニ在ルト外口ノ領土内ニ
在ルトの間ニ適用セザル日本ノ領土ニ対シテ適用サルハ結果其ノ
領土内ニ在ルモカ日本臣民ニ在ルト外口ノ人ナリトテ一般ニ適用セザル而シ
共斯ク如ク日本臣民日本領土ニ在ルト外口ノ人ナリトテ適用セザルトスル時ハ外口
ノ法律ト間ニ衝突大キ事アリマシハ見易クモ理ルルガ故ニ法例ハ其
ニ第以下ニ於テ其解決ヲ爲スル者數個ノ口際私法時規定ヲ設ケ

以テ民法ノ適用ヲ制限セリ 民法ハ日本領土ニ適用サレテ其モ特殊ノ一由ニ因リ民法カ
ノ儘当然ニ適用セラレザル地域アリ

一〇ノ條ニ於テハ法律ヲ要スル一ノ項ハ台湾總督有ノ命令即律令ヲ以テ規定スルコ
トニ付ベキモノニシテ民法ハ当然ニ適用セラレズ律令ニヨリテ或ル制限ノ下ニ適
用セラル

二〇朝鮮ニ於テハ法律ヲ要スル一ノ項ハ朝鮮總督ノ命令即律令ヲ以テ規定
スル一ノ項得ルモノニシテ民法ハ朝鮮國民一ノ令ニヨリテ適用サルニスガナルナリ

三〇樺太ニ於テハ勅令ヲ以テ民法ヲ施行スル一ノ項定ムルモ土人ノ他ニ関係者ナ
キ一ノ項ハ從來ノ慣例ニヨル

四〇廣東洲ニ於テハ勅令ヲ以テ民法ヲ施行セルモ支那人ノ他ニ関係者ナキ一ノ項
ハ多少從來ノ慣例ニヨル

第三ノ事ニ関スル効力

民法ノ適用サレバ一ノ項ハ民一ノナリ民一トハ普通ニ生スル生活現象ヲ云フ
ノ民一ニ因リ特別法アルトモ其法ヲ適用シ特別法ナキモノニ付テハ民法ヲ適

(甲午律令七号)

(甲午律令十一号)

(甲午勅令九号)

(廣東洲裁判所一ノ勅令)

第三 民法ノ解釈
第一 解釈

法律ノ解釈ハ法律ヲヨリテ現レタル立法者ノ意思ヲ確定スルヲ或ハ解釈
ヲ以テ立法者ノ意思ト離レタル法律其ノモノ、意思ヲ確定スルモノナリ
トナスル説アリ而シテ法律ハ其同団体ノ意思ノ表現ニシテ填言スル立
法者ノ意思ノ表現トシテ法律ノ意思ト立法者ノ意思ト同一ノモノナラハ
必カク立法者ノ意思トハナレザル法律ノ意思トナルモノハ存在スルヲ得ズ若シ
斷テ如キ意思アリトシテ之ヲ探求スル之ヲ適用スルヤカ法律ノ解釈ノ
目的ナラバ之レ法律ヲ解釈スルニ非ズレテ法律ヲ作ルニ等シ法律ノ解
釈ハ法律ノ適用トハナレバカキル関係ニアリ蓋シテ法律ノ適用ニ制定セラレタル
モノナルト云ヘ共之レヨ日中百端ノ一ニ活用スルニアタリテハ疑義ノ生ズルヲ
免レタ後ニ其ノ解釈ノ方法ヲ誤ルニ其ノ適用ヨロレキヲ得カレバナリ殊ニ原
則ヲ掲ゲ細目ヲ解釈ニ任レタル法律ニ對シテハ公認ニ甘テ解釈ニ注意
ニセザルベカラハナリ

二 民法解釈ノ方法

法律ノ解釈ハ法律自ラ之レヲ示スルヤリ即チニ成立セル法律ハ疑義ヲ生ズル
場合新ナル法律ヲ以テ其ノ意思ヲ確定スル之ヲ強制解釈トシテ之レ名ハ
解釈トシテモ其ハ新ニ法律ヲ制定スルモノナリ從テ其ノ解釈ハ強制ニ對シテ
力ヲ有シ其ノ解釈ノ旨不問ニカカズ之レニ從ハザルヲ得ナリ法律ノ仍テ法
律ヲ解釋スルヤリニ對シテ其ノ基本イテ法律ヲ解釋スルヤリ學理解釋ト云フ
學理解釋ハハコト者多シ實際意思ニ任テ研究スルヤリ法ノ意思ヲ確
定スルモノトシテカレバ強制解釋ト異リ絶對的ニ適用スルカレバ其ノ解釋ノ
モノナラバヤリ解釋ヲ以テ人ノ公認ニ如何ニシテモノト云ハカレバ以テ解釋
ニニテ法アリ

一 文理解釋

之レ法律ノ用語ニ基イテ法律ノ意思ヲ確定スル方法ナリ法律ノ用語
ハ文法上ノ法則ニ從テ其ノ解釋スルハ勿論在東ノ用語ニ對シテ亦同ク之
殊ニ用語ハ法律専門ノ語ナルヤ否カキ注意シテ其ノ由ラレ場合ニ於テ人
ノ普通觀念ニ從テ其ノ解釋スルベシ加之用語ノ原則トシテ立法時ノ意思ヲ

ラサレバカスガ並ニ此ノ意義コソ立法者ガ法律ニ仍テ現カレトシタリト云
フ一ヲ得レバナリ

二 論理解釈

之ヲ推理ノ作用ニ依リテ法律ヲ解釋スル方法ナリ之レヲナスニ付テハ注意ハハキ
モノ左ノ如シ

一、法規ノ連結 凡ソ各條ノ法規ハ互ニ結合セルニ付互ニ相立ノ間ニ脈絡アリ
統一ナルヲ以テ其一ノ法規ヲ解釋スルニ其ノ法規ノ排列ノ地位同法條中ノ
他ノ規定ト他ノ關係ニ注意セラルベカラズ加之他ノ法律ト關係ヲ看通スル
ヲ得ズ

二、法律制定前ノ事情ニ注意シテ法律ノ沿革母法

三、法律制定ノ目的

論理解釈ハ法律ノ文字文章ヲハ別ニ法律ノ意義ヲ確定セラルベク
ニテ其ノ推理ノ作用ヨリテ法律ノ文字文章ニ仍テ現カレタル法律ノ意義
其ノモトヲ探究スル一ヲ目的トス之ヲ論理解釈ハ文理理解ト相合ハルモ
ノニアラズ以テ但ノ解釋方法ハ相違テ初メテ法律ノ真意義ヲ確定スルベキ

モイテ又法律ノ明文テ欠クテ頂ニ付テ如何ナル解釋方法ニ仍テ法律ヲ適
用スルベキ斯ク如ク協會於テハ法律ノ精神ヲ探究スルニ適用スルベキ規則ヲ
知ル一ヲ要ス類推解釋ノ分テ二ハハル一頂
ニ付テ規定アル場合ニ之レト理由同一ナル一ニ付テ其ノ他ノ類推場合ニ
適用スル一ハ數個ノ法規ニ通ズル根本ノ原則ヲ他ノ類推場合ニ亦
用スル一類推解釋ハ逐条ニ行ハレ、解釋方法ナリ

第一、民法ノ慣用語

民法ヲ解釋スルニ左ノ慣用語ニ注意スル一ヲ要ス

一、法律ト法令
民法中ニ法律亦ハ特別法ト云フ時ハ所謂法律ヲ指シ法令ト云フ時ハ法
律命令ヲ含ム

二、適用ト準用

適用ハ或ル場合ニ該當スル法規ヲ正ニ其ノ場合ニ適用スル一ヲ云フ準
用ハ或ル場合ニ同法條ヲ其ノ場合ニ類推スル他ノ場合ニ之ヲ用テ其ノ變
心更テ之ヲ適用スル一ナリ但シ準用スル旨ノ規定ナキモ類推解釋ヲナレ得ヘキ

(第三十三條、第三十二條、六條)

又トバハ

(第百三十三条)

三、看做ハ、推定ス、

看做ハ、法律ニ明文無アル時ノ他、反証ヲ許サシムルモノヲ云フ推定ストハ、当然反証ヲ許スベキモナリ (第百十九条、第百八十八条)

四、第三者

第三者ハ、当リ一者以外ノモノヲ云フ法、括弧、締人及代理人ハ、当リ一者ニシテ、第三者ニアラズ (第百二十一条)

五、對抗

對抗ニ付テハ、對抗力ナキ一ト不成立亦ハ、効力ノ発生ナキ一ト混同ベカラズ、且、對抗セラル一トナキモアリ、對抗スル一ト得ルモノニ、對抗スル一ト成テ、成立ト効力ノ発生

(第百八十八条)

以、二者ノ混同ベカズ (第百八十七条) 但、此ノ場合ニハ、合致ニ解スル一アリ

(五十五系) 而シテ、惡知ハ不成立一義ナリ

七、善意ニ對シテ惡意

善意ニ對シテ惡意ト云フ、知ラザルノ善意ニシテ惡意トハ、之レヲ知リタルノ義ヲ云フ

第四章 私権ノ觀念

權利ノ本質ニ付テハ、古來是說ナシ、汎ノ義ニ有テ、權利ヲ法律ノ限界内ニ於ケル力亦ハ、意思及配力ナリト説明スルノ意思、説ト云フ亦一汎ノ學者ハ、權利ヲ法律ニヨリ保護セラルル利益ナリト説明スルノ利益、説ト云フ、意思、説力亦ハ、支配力カ、處理上ノ意思、力ナリトモ、意思、能力ナキモ、權利ヲ有スル、但、所ヲ説明スルノ得、故ニ、二者ハ、其ノ所謂力亦ハ、支配力ハ、法律カ各人ニ付テ、力亦ハ、支配力ヲ云フモノト説明セリ、而シテ、其ノ説明ハ、權利ノ外、他ヲ説キ、得タル、過、或、權利ハ、法律ニ付テ、力ナルカ、ナル一、疑ナシ、其ノ故ニ、法律ハ、各人ニ一定ノ限、界内ニ於テ、力ヲ与ヘ、之ヲ説明セ、亦、夫、知テ、權利ノ本質ヲ、得タルトナス、得、又、利益、説ハ、權利ノ目的ニ、重キヲ、オキ、權利カ、各人ノ利益ヲ、保護、換、ニ、ト、生、活、資料ノ、保護、ヲ、目的ト、ス、ト、説、カ、利、益、ヲ、得、テ、權利ノ、本質、ナリト、云、カ、故、ニ、意、思、説、力、欠、失、ヲ、説、明、シ、得、ル、其、利、益、目、的、ニ、付、テ、權利ハ、之、ヲ、達、ス、ル、手、段、ナリ、從、テ、利、益、ヲ、得、テ、權利、ナリト、云、ハ、權利ノ、目的ト、其、ノ、内容ト、ヲ、混、同、ス、ル、事ト、云、ハ、カ、ル、故、ニ、汎ノ、學、者ハ、之、上、ニ、説、テ、折、衷、シ、權

利ヲ以テ生活上ノ利益保護ヲ以テ各人ニ与ヘラレタル法律上ノ力ナリト云ヘリ
以テ、説キ可クハ權利ハ利益及力ヲ以テ其要素トシテ利益之レヲ客觀的
ニ觀スルニ「」ヲ要ス一般則チ生活上ノ利益タルハ偶々權利者ヲ
利ヲ得ル「」アルニ利益タル「」ヲ防グ亦力ハ法律ノ賦与スル力トシテ
利益ヲ主張シ得ル「」ヲ得法律上ノ力ヲ云フ以テ力ノ所續者ハ即チ權利
ノ主体ニシテ之レヲ人格者ト稱ス人格者ハ自然人即チ人及法人ナリ

第二 主權本質及其分類

權利ヲ別テ公權及私權トス以テ區別ハ公法及私法ノ區別ニ相對スル
モノニシテ公權ハ公法上ノ權利、私權ハ私法上ノ權利ヲ云フナリ從テ公
權ハ公法ノ定ムル法律關係トシテ、私權ハ私法ノ定ムル權利トシテ、
法律關係ニ基ク權利ヲ總稱シ私權ハ私法ノ定ムル權利トシテ、
公法以外ノ法律關係ニ基ク權利ナルハ故ニ其本質ハ私法關係ニ
於ケル各人ノ利益保護ノ目的ヲ以テ賦与セラレタル法律上ノ力ナリトス
私權ハ各種自見地ヨリ之レヲ分類スル「」ヲ得主ナルモノ左ノ如シ
一 私權ノ客體ニヨル分類

權利ハ利益ヲ以テ目的トシテ利益ハ之「」ヲ充實スベキ物體ノ圍ルニ依リ其
ノ内容ヲ因テ以テ物體ハ權利ノ客體ニシテ之レヨリ權利ヲ分類ス左如
イ 人格權

以テ權利ハ權而者自身ノ人格ヲ以テ其客體トスモノアリ生命、身體自由、
名譽等ヲ目的トスル權利之ニ屬ス他口ニ於テハ之等ノ利益也其權利
利ノ存在ヲ見認スル「」付テ之等「」其民法ニ於テハ不法行為ハ權
利ノ侵害ナリトシテ而シテ生命、身體自由、名譽等ノ侵害ハ之レヲ不
法行為ナリトセルカ為ニ之等ノ利益ヲ以テ權利ノ目的ナリ得ルモノト説
ク「」明ナリ代名權モ亦人格權ニ屬ス

口物權

以テ權利ハ物ヲ以テ客體トスモノナリ物權ハ物ニ對スル直接ノ支配關係
ナルト同時ニ一般ノ人ニ對シテ之レニ干渉セザル須極的ノ作用ヲスルニ
一般ノ人ノ如キ「」義務ヲ負テ物權中稀ニ權利ヲ以テ其客體トスモノアリ
例之、權利質、(第三百六十二條以下) 永小作權亦ハ地上權ヲ目的ス
ル抵当權、(第三百九十八條) 權利讓與、(第三百五十一條) 如シ

八、債權

以權利人之行為或不行為為客體之換言又他人之一定行為或不行為為要求之權利ナリ

二、親族權

以權利他人之身體ヲ以テ客體トスルニシテ親權夫權子權其ノ他親族及上ノ權利ハ概テ以テ權利ニ屬ス又以テ權利他人ノ行為ヲ以テ客體トスルニ能ケドモ亦他人ノ人格其ノモノヲ以テ全ク權利者ノ支配内ニ直ク權利ニモアラス

六、相續權

無體財產權

以テ權利他人ノ智能的創作物タル無體ノ財產ヲ以テ客體トシテ著作權意匠權實用新案權商標權特許權等ノ如シ物權權權ト同ジク財產權ニ屬ス

ト、社員權

以テ權利社會法人ノ社員カ法人ニ對シテ其ノ組成分子トシテ有スル權

利ノ總稱ナリ配當受領權表決權業務執行權監督權ヲ包含スル權利ハ法人ノ社員ト特別ノ關係ニ基ケルコトヲ以テ之ヲ有スル者之ヲ特殊ノ權利トシテ說明ス

二、私權ノ作用ニ依ル分類

一、支配權 支配權ハ權利ノ客體ニ直接ニ行ハル私權ヲ多ク創之物權無體財產權ノ如シ親族權親權夫權子權等之ヲ屬ス又以テ權利直接其ノ客體ニ行ハルト今世之他人カ其支配範圍侵害スルコトヲ妨止スル權利ヲ件ケモノナリ

二、請求權 請求權ハ他人ノ行為ヲ(作為或不作為)要求スル私權ヲ云フ請求權ハ一般ニ他ノ權利ニ基キ發生ス創之物ノ所有者ハ其ノ物ノ侵害者ニ對シテ所有權ニ基キテ返還請求權ヲ有スルカ如シ債權ヨリ派生スル請求權ハ債權ト同一性質ヲ有シ其各物ノ請求權ハ

即チノ債權ヨリ從テ債權派生スルモノナリ創之物ノ賣主ハ其ノ物給付ヲ請求スル權利ヲ有シ其履行セラレハル場合ニ損害賠償請求權ヲ有シ之ヲ請求權ハ之ヲ各別ニ觀察スルバ債權其ノモノナリ而夫

債權外ノ權利ヨリ発生スル請求權ハ債權ナリトシテ了了ノ得ズ其ノ債權外ノ權利倒之物權ヨリ流出スル請求權ハ亦其ノ基礎權ガ侵害セラレタル場合ニ侵害前ノ状態ヲ回復スル目的ノ下ニ其ノ基礎權ヨリ流出スル物ナル其ノ請求權ハ單純ニ財產ノ移轉ヲ目的トスル債權ト其ノ性質ヲ異ス故ニ以テ種ノ請求權ハ債權規定ヲ適用スル了了ノ得ズ之ヲ準用シ得ルニシテ之ヲ準用シ得ルヤ損害賠償ノ請求權ハ不法行為ニヨリ生ジタルノ請求權ニシテ其ノ性質ハ債權トシテ了了ノ得ズ不法行為ノ規定ニ從了了スルハ形成權、形成權ハ一方の行為ニヨリ他權利ヲ設創シ變更亦消滅セラル權利ヲ多ク倒之惡權代理ノ場合ニ於テ追認權(第百三三條)選認債權(第百三三條)選認權(第百四六條)取消權(第百三三條以下)解除權(第百四七條以下)廢罷訴權(第百四二條)等ノ如シ創設變更亦消滅ノ效果ハ單純ニ意思表示ニヨリテ生ズル了了ノ得ズ倒之契約解除ノ如シ或ハ亦意思表示ノ他判決ヲ用トス了了ノ得ズ倒之各種ノ形式權ニ對スル法律上ノ取扱ハ同一ニシテ倒之承継ノ得ズキモノヨリ然ラザルモノアリ取扱ヲ原因トスル法律行為取

須推、離婚請求權、如レ或ハ他ノ權利ト結合シテ存在スルヲ認ラルモノアリ、獨立して存在スルモノアリ、廢罷權ト取消權左ノ如シ

三、權利ノ効力ニ依ル分類

權利ハ他人ニ對シテ其ノ効力及ホスル範圍ヲ標準トシテ私權分類スレバ左ノ如シ

一、絶対對權、權利ガ單一特定ノ人ニ對シテ其ノ効力ヲ及ボス時ハ之ヲ絶対對權トシテ倒之物權ハ物ニ對スル法律上ノ効力ヲ及ボス何人ニ對シテモ主張スル了了ノ得ズ、一般ノ人物ニ對スル權利者、支配関係ヲ侵害セザル以テ取消的ノ義務ヲ負フ其ノ他人格權、親權中ノ大部分相續權、無條件財產權ハ之ニ屬ス、以テ權利ハ之ヲ對世權トモ云フ

二、相對對權、權利ガ特定ノ人即チ義務者ノニ對テ對抗シ得ズキモノ其ノ他人ニ對シテハ原則トシテ其ノ効力ヲ及ボサル時ハ之ヲ相對對權ト稱ス(亦對人權云フ)倒之債權、如レ絶対對權ト相對對權ト區別ハ各種ノ權利ノモノナル効力ニ付テ為サザル分類方法ナリ各種ノ權利ハ必シモ或然以テ之ノ區別セラルモノニアズ、倒ハ親族權ノ如キハ二種ノ規定ヲ包含了了

アリ妻計り夫ノ権利ハ絶対權トシテ妻ニ對シテ特定ノ行為ヲ要求スル夫ノ權利(例ハ同居請求權ハ相對的ノ權利ナリ)債權モ亦相對的効力ノ外絶対的効力ヲ併有スルナリ債權が專ら者ニ於テ之ヲ侵害シ得ベキモノナル時其ノ範圍ニ於テ一般ノ人ニ不可侵ノ義務ヲ負ハレバハカレバカレナリ

- 四 其ノ他ノ分類
- イ 財産權ト人身權
- ロ 主權ノ權利ト從權ノ權利
- ハ 一身ニ占居スル權利ト移転シ得ベキ權利

第五章 私權ノ行使

私權ノ行使ハ私權ノ目的タル利益ヲ享受スル行為ヲ云フ所有權ニ對シテ之ヲ云ハバ所有物ヲ任用シ收益シ若クハ處分スルハ即チ所有ノ行使ナリ私權ヲ行使スルト否トハ權利者ノ自由ナルヲ原則トシ而シ共之ヲ行使スル力權利者ノ義務ナリ「モアリ」例之親權ヲ行フ父亦母ハ未成年ノ子ノ看護及教育ヲス權利ヲ有シ義務ヲ負フベシ

(第八百九十九條)

其ノ他契約ニヨリテ物ノ價値加物ノ受領義務ヲ負フ時ハ之ヲ受領ス權利ノ行使ナルト全時ニ義務ナリ又凡ソ社会的共同生活ヲナスモノノ間ニ於テハ一人ノ利益が他人ノ利益ト抵觸スル「アル」數ノ免レバモナリ權利ハ斯ク如キ場合ニ於テ其ノ利益保護ノ爲ニ賦与セラル法律上ノ力ハ權利ノ行使ヨリ他人ノ利益ヲ侵害スル「アル」ハ当然ノ「因」ナリ而シテ法ハ權利ノ行使ヨリ無制限ニ他人ノ利益ヲ擧げ「スル」ヲ許スモノトス「ル」如シ社会觀念上適當ナリト認「ム」ル範圍ニ於テ權利者ハ權利ヲ行使スル「ル」得ルニ「ス」ル「ル」範圍ハ法律ニ於テ認「ム」ル權利ノ行使ノ限「界」ナリ「ス」從テ故意並ハ過失ヨリ適當ナル範圍ヲ越「ス」ルに至「ル」方法ニヨリテ權利ヲ行使シ他人ニ損害ヲ加ハタル場合ニ於テハ之レ權利ノ亂用ニシテ適法ナル權利ノ行使ト云フ「ル」得「ル」ラ「レ」之レヨリ他人ニ加ヘタル損害ハ權利者即チ加害者ニ於テ之レヲ信託セバ「カ」ラズ例之學士澤人ハ此等ノ所カレ同的ヲ以テ無用ノ高價ヲ以テ買ハ「ル」業令社ガ娯樂會社

ヲ人格者ト認ガル立法例アリ其民法ハ斯ク如キ例外ヲ認ズ胎児ハ独立ノ
生存者トアリカレバ故ニ原則トシテ推利能力ヲ有ス而シテ其母腹中ニ在
ル人格者トナルベキモノトシテ故ニ四條馬法ニ於テハ胎児ハ其ノ利益ニキリテハ
生カスモノト看做スリ我民法ハ斯ル概括ノ規定ヲ設ケテ夫胎児ノ出生
シタル場合ニオケル利益ヲ保護スルニテ相續遺贈及不法行為ニ其適用ス
ル損害賠償ニ付テハ胎児ヲ已ニ生レタルモノト看做スリ (第九百六十條) 夫
九百九十三條 第七百二十六條 第七百二十七條) 已ニ生レタルモノト看做スル
生レタルモノト看做ストノ意義ニ付テニ説アリ一胎児ト看モテ規定ニ依リテ
認ラザルニテ範圍内ニ於テ推利能力ヲ有シ只死体ニテ生レ若クハ出生セザル
時ハ推利能力ヲ有セザリトナレバ胎児ノ條件附テリトナレハ胎児ハ生キテ
生レタル場合ニ其ノ推利能力取得ノ如キヲ既往ニ溯及セシムルニトシマ
胎児トシテハ推利主体ニテラストス我民法ノ解釈トシテ後説ニシテカレ胎
児ハ推利主体ニテラストス其母ノ生マデハ將來出生スベキ推利者トシテ其ノ法律
上ノ保護ニ付テ存スル時ハ可ク人ノ推利能力ノ終期ハ其ノ死亡ノ時ナリ死
28 亡トシテ其ノ遺體ニ付テハ其ノ遺體上ノ何等ノ推利規定ナレ故ニ一トシテ

ノ教訓(例之夫婦)相共ニ死セシムル如キ場合ニ於テ其前後ニ付テ存スル
丁ニテトヤタ羅馬法ニ於テハ今時ニ死セザル時ニ推定ノ規定ヲ備ケ亦我民法教訓
共通ノ危難ニヨリ死亡セザルトシテ今時ニ死亡セシムルモノト推定セリ我民法ニ於テハ
死亡ノ前後ニ付テ存スルモノトシテ其ノ前後ヲ主張スルモノニ於テ之ヲ立証
シ得タルヤ否ヤニ於テ決スル一外ナレ私推ノ享有ハ人ノ身分ニ依リテ差別ナ
キヲ原則トスレ共外口人ニ付テハ其ノ推利能力ニ多少ノ制限ナキニテ人ノ往
古ノ交通漸ク繁盛トナルニ及ビ外口人ニ對シテ私推ノ享有ヲ材ホシ
レ共交通漸ク繁盛トナルニ及ビ外口人ノ保護ノため之ニ對シテ其ノ人本口
ニ於テ外口人ニ付テラド同ノ推利ヲ与ヒルノ主義ヲ行ヒタリ之即チ相互ノ主義ニ
シテ因心慮ヲ交換スルモノニ外ナラズ以テ主義ヲ別チテ各給相互ノ主義(佛民法)
及ビ法令相互ノ主義(壞口民法)等トシテ於テ更ニ内外口人ニ平等ニ推利
能カラシムルニ付テ行ル之レヲ平等主義ト云フ我民法ハ法令亦ハ各約ニ禁
止ル場合ヲ除ク外内外口人外口人ナレテ平等ニ私推ノ享有セシム(民法第
二條) 故ニ平等主義ニ依ルモノナリ外口人ハ日本ノ口籍ヲ有セザル人ナ
ラズ如何ナル人ガ日本ノ口籍ヲ有スルヤハ口籍法ヨリ定ムル外口人ノ口籍ヲ有スル

意思能力ナルモ直其行為ヲ制限スルモナリ意思能力ナキ行為無
能力者ハ之レヲ絶対的無能力者ト云フ例ハ初者精神病者由癡者
如シ之レニ對シ意思能力ナルモ完全ナル行為能力ナキモノヲ相對的無
能力者若クハ限定能力者ト稱ス民法ニ所謂無能力者ハ限定
能力者ノ意ナリ相對的無能力者ハ亦ハ之レヲ別チテ一般ノ無能力者
及特別ノ無能力者トス前者一般ノ法律行為ヲナスコトヲ得ルモノニ
シテ後者ハ特定ノ法律行為ヲナスコトヲ得ルモノナリ例之後見人ハ後見
討算前ニ未成年者ト法律行為ヲナスコトヲ得ルモノナリ如レ(其九二二九条)
民法が相對的無能力者トシテ而モ一般ノ無能力者ト定ムルモノハ未成年
者其治産者、準禁治産者事トス

第二 未成年者

未成年者トハ滿ニテ三達セザルモノヲ云フ(其三条)未成年者ハ独立シ
テ法律行為ヲナス智識及經驗ナキ為不正ノ徒未成年者ヲ誘ヒ詐
術ヲ用イテ不正ノ利ヲ貪ルモノトシテ之レ未成年者ヲ其能力者ト
シテ其利益ヲ保護スル所以ナリ未成年者ヲ無能力者トスコトハ各口

皆金而乍爾成トシテ達スル年齢ハ五ニ異ル(スイス二十年) 独佛英(廿五)
オランダ(スベイン(二十三年) オーストリア(スウェーデン(二十四年)) 成年トス亦特例ハ
滿七歳以下ハ絶対的無能力者トセリ而シ共我民法ハ幼老者ノ意思
能力ナキヤ否ヤハ同一問題トス其他我口茲ニ於テモ天皇皇太子皇太子
孫ノ成年ハ民法トシテ之ヲ(皇室典範其十三条) 以上年齢ノ計算ハ
我口ニ於テハ日ヲ以テス(明治三十九年法律其十号) 未成年者ハ独立シ
テ法律行為ヲナスコトヲ得ルモノナシ其法律代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要
ス(民法其四第其一項) 未成年者ノ法律代理人ハ親權ヲ行フ亦父若クハ
母亦ハ後見人ナリ法律代理人ハ未成年者ノ身体ヲ屬監護シ財産
ヲ監理シ且其財産ニ關スル法律行為ニシテ未成年者ヲ代表シ若クハ未
成年者ガ其ノ行為ヲナスニ付其同意ヲ与ルヲ推展ヲ有スルモノナリ(其百
八条) 其八百十六条其九百二十三条) 要スルニ未成年者ガ意思能力
ナキ時ハ法律代理人之レニ代リテ法律行為ヲナス亦意思能力アル時ハ之レ
ヲ代リテ其行為ヲナスコトナリ亦ハ未成年者ガ之レヲナスニ付其同意ヲ与ルコト
必要トシ未成年者ガ法律行為ヲナス時亦ハ之レト合時ニテ之ヲキモナリ而シ共

了後三事り合意トシ、
 了初力ヲ生ズ(其百三十三条)未成年者が法定代理人ハ合意多クモ
 タル行為ハ全然無効ニテ其行為ハ一應有効ナレ共未成年者其他
 其百三十三条ニ掲ゲタルモニ於テ之レヲ取消ス(其四二条一項)

取消タルトモハ初ヨリ無効ナリモト認ニル而シテ未成年者ハ其法律
 行為ニヨリテ取得多クモノヲ現ニ利益ヲウケル程度ニ於テ償還スル義務ヲ負
 フ相手方其行為ニヨリテ得ル利益ノ全部ヲ返還セサルカラス(其百
 三十三条)此ノ原則ニ於テハ例外アリ即チ未成年者ハ左ノ場合ニ於テハ完全
 ナ能力ヲ有シ單獨ニ其行為ヲナス(其四二条一項)

一、單ニ權利ヲ得ルハ義務ヲマカレバ其行為ヲナス(其四二条一項)
 例之頁担上ノ贈与ヲラケ若クハ他合外ニ贈与ヲ取消如シ

二、法定代理人ノ目的ヲ定メ若クハ之ヲ定メテ返分ヲ許スル財產ヲ
處分ス(其四二条一項)

例之ニ資金ノ使裁ノ責有知レ莫口法ニテハ未成年者分父
 要買贈与の時其ノ行為ヲ有効ニ秋長法ニ斯ル相定ナレ

小、種ホハ教養ノ官業ヲ許サレタル場ニ於テ其ノ官業ニテスル一切行為ヲナス(其六六条、其八十八、九十三、九十九、百零二条)

近キ智能ノ若育者トシテハ之レニ信託事務ヲ許スモ不可ナレ斯ル場合ニ於テ
 其未成年者ヲ成年トシテ待遇スル(其八十八、九十三、九十九、百零二条)

代理人ナリ(其八十八、九十三、九十九、百零二条)而シテ官業ハ
 一旦之レヲ許スモ未成年者其信託事務ニ堪ヘサル(其八十八、九十三、九十九、百零二条)

人ハ之レヲ取消シ亦制限スル(其六六条)

大、會社ノ無限責任社員トナルヲ許サレタル未成年者其會社ノ業務ニ
干スル行為ヲナス(其六六条)

第三 禁給產者

禁給產者トハ用心神ノ喪失ノ常態ニアルモノニテ禁給產者ノ官告ヲケタルモ
 其ノ凡ソ意思ノ行使行為ハ無効ナリ故ニ痴癡白痴ノ類カ其ノ喪失中ニシテ
 ル行為ハ無効ナラザルベカラス而シテ其ノ喪失中ノ行為ナルマズヤテ區別ニシテ「禁給
給產者」トシテ之ヲ保護シ一切法律行為ヲ取消ス(其六六条)得セシム禁給
 產者ハ之レヲ心神喪失ノ常態ニアルモノニ對シテ言ヘバ其ノ心神喪失ノ禁給產者ノ原

因トスル而シ共其ノ良心ハ常クナリ了ヲ要ス一時本心ニ復スルナリアルモ可ナリ
 而シテ其ノ後見人ノ宣言ヲ亦以テ得ルベクハ 1. 本人、2. 配偶者、3. 四親等内
 ノ親族、4. 戸主、5. 後見人、6. 保佐人、其ノ外ハ換了ナリ(其ノ七条)故ニ
 未青年者、準其ノ親権者ト爲シ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ八条)宣言
 ヲ亦以テ其ノ後見人ト爲シ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ九条)宣言
 見人ト爲シ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ十條)宣言
 見人ト爲シ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ十一條)宣言
 見人ト爲シ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ十二條)宣言
 見人ト爲シ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ十三條)宣言
 見人ト爲シ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ十四條)宣言
 見人ト爲シ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ十五條)宣言
 見人ト爲シ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ十六條)宣言
 見人ト爲シ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ十七條)宣言
 見人ト爲シ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ十八條)宣言
 見人ト爲シ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ十九條)宣言
 見人ト爲シ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ二十條)宣言

九ノ七条以下ニシテ是レヨリ違フモ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ七条)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ八条)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ九条)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ十條)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ十一條)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ十二條)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ十三條)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ十四條)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ十五條)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ十六條)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ十七條)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ十八條)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ十九條)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ二十條)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ二十一條)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ二十二條)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ二十三條)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ二十四條)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ二十五條)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ二十六條)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ二十七條)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ二十八條)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ二十九條)宣言
 亦之レニ準テ其ノ後見人ト爲スルコトヲ得ル(其ノ三十條)宣言

二付テ其ノ持主ヲ治産者ヲ管スルニ其能カラ補充スル保佐人ハ後見人ト異リ
準據第拾陸条ノ代表スル權限ナレ故ニ法定代理人ニアラズ準據第拾陸条
者ハ單獨ニテ法律行為ヲ行フ得ルコトヲ原則トス但シ保佐人同意ヲ
得ズシテ十三條ニ掲ガレ行爲ヲ行ハルコトハ之レヲ取消スルコトヲ得(十三條三項)
裁判所ハ場合ニヨリ準據第拾陸条者ノ其他ノ行為ヲナスルコトモ亦保佐
人ノ同意ヲ用ズルコトヲ宜シスルコトヲ得

其ノ上ニ若クハ一取ニ揚タル行為中其ノ子ノ借財ヲナスル金錢亦ハ之ニ準
スベキモノ借リ得ルコトヲ云フ或ハ借財ヲ返テ金錢債務ヲ負担スル行為
ナリト解レ約束手形ノ振出シラ之ニ包含セシムル説アリ共ニ非ナリ約束
手形ハ既存債務ノ弁済方法トシテ振出サルコトアリテ其ノ振出ルハ全
錢亦ハ之ニ消滅スベキモノ借入レシコトアリ故ニ借財ノ爲ニスル手形
ノ振出レシ限リ保佐人ノ同意ヲ要スルコトヲ取消スルコトヲ得ト解スベシ
其ノ上ノ不動産亦ハ之ニ要スル不動産ニ因スル權利ノ得來ヲ目的トス
ル行為トハ其ノ不動産亦ハ之ニ要スル權利ノ得來ヲ目的トスル行為ハ
勿論其ノ物權ノ得失ニ因スル權利即借債權ニ因スル行為ヲモ包含ス

重要ナル動産ノ消滅ハ一々問題ナリ無体財產權ノ登記名簿ノ
得來ヲ目的トスル行為ハ其ノ權利ノ得來ノ原因ノ行為ノ爲メニ行ハルコトヲ要
スル行為ハ本條ノ行為ニ屬スルコトヲ云フ者アレ共以テ權利ノ得來ノ場
合ニ於テ之ノ限リ保佐人ノ同意ヲ得ズルコトヲ其ノ得來ヲ目的トスル行
爲ヲ云フコトヲ得ヘレトスル時ハ準據第拾陸条者ノ保佐人ノ同意ヲ要スルコト
等ノ行為ニ於テモ同條同項ヲ類推適用シテ保佐人ノ同意ヲ要スル時ハ之レ
ヲ取消スルコトヲ得ト解スルコトヲ得取消者ハ之ニ於テ保佐人ノ同意ヲ要スル
項ノ如キ其ノ權利ノ得來ノ原因ノ行為ニ於テ保佐人ノ同意ヲ要スルコトヲ宣
告ハ其ノ原因ニ於テ保佐人ノ同意ヲ要スルコトヲ得之ニ付テハ大體若キ若ク
産權協合ニ同シ

第五節 妻

女子ハ体カ弱カ爲メ古代ニ於テハ女子ノ地位ハ男子ニ及バザリテ家ヲ近代
ニ於テハ女子ノ法律上ノ地位ヲ高メヤナリ共ニ私法上ニ於テハ男子ト同等ト
ストノ主義行ハル我々民法上ニ於テハ男女ノ權利ハ總テ平等トシテ實定婦ノ
如ク民法上ノ地位ハ原則トシテ男子ト同等トシテ其ノ例外トシテ是レ以テ相續ニ付

第三者三村と八其ノ制限若クハ取消アルコトヲ得ル(オオ十ニ条)未青
年者ノ場合ハ中田ヨリ五ノリ(オオ六ニ条)夫ノ許可ハ妻ノ能力ヲ補充スルニシテ共
共ニ定ムル場合ニ於テ夫ノ許可ハ妻ノ完全ナル行為ノ能力ヲ有シ
ニテ之ヲ場合於テハ許可ヲ得ルコト不能ナリ。若クハ夫ノ許可ヲ得ルコト
一ノ多量上ニ當リテバナリ夫ノ未成年者ナル場合ニ於テハ何人が許可ヲ与
ルニ未成者ナル夫ノ自ラ法律行為ヲナス能力ヲ有セズ而ルニ許可ハ法律行
為ナルニシテ未成年ナル夫ハ成年ニシテ許可ヲ与ルコトヨレシト故ニ夫ノ未成年者
ナル時ハ其ノ四者ヨリ夫ノ法定代理人ノ多量ニ得ルニテ二カバ許可ヲ与ルコ
ト得ズ(オオ十ニ条)而共此ノ規定ハ夫ノ法定代理人ノ多量ニ夫ノ推ノ行使ニ干渉
セズルヲ以テ果シテ正事ニヤ疑ハレトセ夫ノ法定代理人ノ多量ニ夫ノ多量ニ
許可ハ之ヲ取消得ルコト勿論ナラズ夫ノ未成年者ナル場合ニ於テ一且適法ニ
与ヘラレ得ルコト取消得ルコト新法ニシテ之ヲ議論アリ共オオ十ニ条ノ趣旨トモ取
消権説ヲ可トス妻が夫ノ許可ヲ得ズル場合ハ其ノ許可ヲ与ルコトナラハ之
レヲ取消スルコト得(オオ十ニ条オオ十ニ条)而共推者否取消ノ取集ヲニ付テハ
(オオ十ニ条オオ十ニ条)オオ十ニ条ニテ之ヲ定ム

第三節 相手方ノ地位

無能力者ハ法律行為ノ規定ニテ之ノ単独ニシテ之ノ行為ヲナレバハ之レヲ取消
コトヲ得而ルニ其ノ行為ノ相手方ハ取消権ナシ然レテ相手方ハ往々危換ナシ地位
ニ立ズル故ニ無能力者ノ取消権ヲ取消セシムル時ハ相手方ニ對シテ其ノ不利
多クナルニシテ之ヲ權利ノ關係セカレ弊害アルコトヲ其ノ取消権ノ行使ニ付テハ之
レニ制限ヲ加ヘカレバオオ十ニ条ハ其ノ百二十ニ条ニ於テ取消権ニシテ特別ナル時
定期間ヲ定ムル人ニテ之ヲ尙相手方ヲ保護スル爲メ規定テ備ケタリ
ノ催告権(オオ百十九ニ条)
無能力者ノ相手方ハ無能力者ノ權利者トナリ之後之ニ對シテ一月以上ノ期
間ヲ定メ其期間内ニ於テ之ヲ行使シ行ハズトシテ之ヲ確答スルコトヲ催告スルコ
ト得若クハ催告ヲ行ハズ無能力者ノ期間内ニ確答ヲ答セザル時ハ其ノ行為ヲ
追認スルコトヲ得(オオ十ニ条)
口無能力者ハ能力者トナラカレ於テハ(一)未成年者其ノ親屬者亦ハ妻
ニ付テハ其ノ法定代理人亦ハ夫ニ對シテ之ヲ催告コトナラズ得(二)等一モカ確答
コト得セザル場合ノ取集ハ(オオ十ニ条オオ十ニ条)但シ法定代理人ニ對シテハ其

権限内ノ行為ニ于テハ三限リ高特別ノ方式ヲ要スル行為ニ付テハ法定代理人亦ハ夫
ガ期間内ニ其ノ方法ヲ踐シタルニ通知ヲ其セザルニ付取消タルモノト爲ス
之ヲ放棄ノ同意ニ爲スル行為ニ付テハ其合意ヲ得タルノヲ通知セザルニ付
以テ其ノ行為ヲ追認スルハ申旨ヲ催告スルノヲ得若シ之等ノ者ガ其期間内
ニ合意書ハ許可ヲ得タルノヲ通知セザルニ付取消タルモノト爲ス若シ如
ク相手方權旨種ノ一方約ノ行為ニ付追認スルハ取消スルモノト爲ス決定スルモ
ノ事ガ故ニ其性質ハ取消式権ニ付催告ハ所謂準強行ノ事ニ付又後ヲ隔
地ニ對スル催告ハ催告ノ相手方ニ到達スルニ付ハ其生付ヲ其合意書ニ付
以テ到達ノ時ヨリ上述ノ期間ヲ計算スルモノト爲ス催告書ニ付受テモ其ノ
其ノ期間内ニ之ヲ其合意書ハ八期間内ニ催告書ニ到達スルモノト爲ス
2 取消權ノ喪失 (第七百三十三条)

無能力者ハ其ノ単独ニテ之ヲ行ハシタルニ付其行為ノ相手方ハ其ノ行為ノ相手方
倍數ノ責任アリ (第七百九十九条) 而シテ損害賠償ノ責任アリ之ヲ以テ之ヲ以テ
ノ額ノ算定ニ付テハ因難トシテ其ノ他能力者ノ責任ニ付テハ八倍
賠償ヲ付スルニ付テハ故ニ其損害賠償ノ代ハ無能力者ノ取消權ノ喪失セ
シテ相手方ヲ保護スル能力者ヨリ之ヲ信セシタルニ付其行為ノ相手方
ガ他方者ヨリ之ヲ信セシタルニ付其行為ノ相手方ノ錯誤ニ付テハ其責任者ヨリ之ヲ
知セザルニ付テハ十分ノ責任アリ之ニ付テハ其損害賠償ノ責任アリ之ヲ以テ
例之ニ付其損害賠償ノ代ハ他人ヨリ之ヲ信セシタルニ付其行為ノ相手方
法定代理人ノ合意書ヲ偽造スルカ如シ

無能力者ハ其ノ単独ニテ之ヲ行ハシタルニ付其行為ノ相手方ハ其ノ行為ノ相手方
倍數ノ責任アリ (第七百九十九条) 而シテ損害賠償ノ責任アリ之ヲ以テ之ヲ以テ
ノ額ノ算定ニ付テハ因難トシテ其ノ他能力者ノ責任ニ付テハ八倍
賠償ヲ付スルニ付テハ故ニ其損害賠償ノ代ハ無能力者ノ取消權ノ喪失セ
シテ相手方ヲ保護スル能力者ヨリ之ヲ信セシタルニ付其行為ノ相手方
ガ他方者ヨリ之ヲ信セシタルニ付其行為ノ相手方ノ錯誤ニ付テハ其責任者ヨリ之ヲ
知セザルニ付テハ十分ノ責任アリ之ニ付テハ其損害賠償ノ責任アリ之ヲ以テ
例之ニ付其損害賠償ノ代ハ他人ヨリ之ヲ信セシタルニ付其行為ノ相手方
法定代理人ノ合意書ヲ偽造スルカ如シ

第六節

債權

債權ノ人ノ生活ノ本據ナリ (第七百三十三条)
生息ノ本據ノ何れニ付テハ其ノ同題ノ先人ノ生息ノ本據トスル場合ニ付テハ
テ其ノ本據ト認ルルベシ (第七百三十三条) 而シテ決シ得ルモノトスル人ノ物上ノ
財產上ノ利益ノ存スル場合ニ付テハ否テモ之ヲ決ス得ルモノト本籍地トハ合意
ノ事ニ付債權ノ生活ノ一室ノ中心トスル場合ニ付テハ本籍地トハ合意ノ

裁判所選任名管理人の行為は取柄多し其輕重を以て
三不在者が管理人となし得る場合三不在者ノ生死不分際たり其場合
以て場合於て裁判所ノ利害干渉人亦ハ權了りノ請求ニ其管理人
ヲ改任了り得(其三不在者)其不在者自ラ管理人ヲ指揮し其爲
管理人於て不正實行爲ヲ了り得亦其故ニ裁判所ニ之ヲ監督せ
以て改任了り得任レ更人選任了り得故ニ裁判所現任者解
任了り得後人者選任人セハハカラス

第二管理人の權限

不在者ノ裁判所選任名管理人不在者ノ代理人ニ其權限ハ妻
僅實モ二アハルヲ以テ法定代理人ノ性質ヲ有ス而シテ其權限ハ範圍
ハ原則トシテ其自ラ定メ定メ行爲ヲ了り得以テ其謂選任
權了り得之ニ屬スル者左如シ

一 保存行為ノ權限
二 債權行使ノ權限
三 債權放棄ノ權限
四 債權讓渡ノ權限
五 債權質押ノ權限
六 債權抵當ノ權限
七 債權質押ノ權限
八 債權抵當ノ權限
九 債權質押ノ權限
十 債權抵當ノ權限

目的是ル行為利用行為ノ例之全キヲ銀行ノ積ケ邊屋ヲ他ニ転賣スル如
レ布政長行為ノ例之口吹尾ヲ裝飾トシ土地ニ肥料ヲ加ヘ其價格ヲ増シ租利
限付テ債權ヲ以テ期限トシ抵當權附着セル此有權ヲ完全ニ權利ト
スル如シ以上ノ行ハク管理人ノ權限トシ之ヲ爲スルヲ得共其他ノ行ハク之レ
ヲ必要トスルハ裁判所ノ許可ヲ要ス(其三不在者)其權限ハオキリ管理人
ノ權限ハ不在者選任行為ニヨリテ定ムル其權限是メホリレハ上述ノ
行爲ヲ了り得(其三不在者)而シテ其他ノ行爲ヲ必要トスル場合ニ於テ不
在者ノ實情分明トシテ其指揮ヲのんじ得ルハ裁判所ノ許可ヲ得
テ其權限外ノ行爲ヲ了り得(其三不在者)裁判所選任名管理
人ニ對シテハ裁判所ノ監督人トシテ不在者ノ一情ヨリ不在者ノ財產
ニ對シテハ報酬ヲ与フルヲ得(其三不在者)不在者ノ管理人名定メモ
其報酬ヲ定メカレシ時ニ於テハ其報酬其裁判所ノ管理人名定メモ
續テ命じタル場合亦同ノ裁判所ノ斟酌スル事トシテ例之妻子其他ノ親
族同儕財產ノ管理ノ難易等如シ其他管理人名費用ノ償還及損害
ノ賠償ヲ請求スルノ事(非訟第四十三條及民法第四百五十五條)

第叁章 管理人ノ義務

一 財産目録調製ノ義務

管理人ハ善良ナル以て管理者ノ注意ヲ以テ不在者ノ財産ヲ管理シ後且
在者若シ其ノ相続人ニテシテ返還セザルベカラズ故ニ其ノ管理スベク財
産目録ヲ調製スルコトヲ要ス裁判所ノ選任官理人ノ当然ノ義務
ヲ負フ(廿七条第一項) 調製ノ選任官理人ノ期間内ニシテ其ノ
ベカラズ其ノ手続ハ廿七条第二項ニ依リ非訴ノ件手続法ニ依リ調
製費用ハ不在者ノ財産中ヨリ支弁ス不在者ノ才先官理人ニ付テモ
不在者ノ生死ナラハ場合ニ依リ利害關係人亦ハ換申事ノ請求スル時ハ裁判
所ハ財産目録ノ調製ヲ命ジリ得(廿七条第三項)
ニ其ノ他ノ處分ヲナス義務
裁判所ハ財産目録調製ノ外尚不在者ノ財産保全ニ必要ナル處
分ヲ命ジリ得倒産ノ破損易キ物ヲ賣却シ金ヲ之レヲ確實ナル
銀行預金カ如シ之ニ充テテ裁判所ハ之ヲ種ノ處分ヲ命ジリ得ハ
一 管理人ハ之ニ依リ其ノ義務ヲ負フ(廿七条第四項)

廿三 担保供与ノ義務

管理人ハ管理ノ失当ヨリテ不在者ノ財産ヲ滅失亦ハ既損スル時ハ損
害賠償ノ義務ヲ負フ裁判所ハ斯ル場合ニ於テ不在者ノ權利ヲ確保
スル為メ管理人ヨリテ財産ノ管理及返還ニシテ担保ヲ供セムルコトヲ得
(廿三条第一項) 倒産ノ管理人ノ財産中ニ質権亦ハ抵当権ヲ設定セテ亦保証
人トシテ之レガ如シ如何ナル担保ヲ供セムルカ否カハ裁判所ノ見込ニ由ル
一旦担保ヲ供セムル後其増減更亦ハ免除ヲ命ジリ得(廿三条第二項)
四十四条) 裁判所ハ不在者ノ才先官理人ヨリテ担保供与ヲ命ジ
リ得ク

廿二 失踪者ノ意思

失踪者ハ不在者ノ生死不分明ノ状態ガ一定期間継続スルヨリテ失踪
ノ宣告ヲ行ケルモノヲ云フ往昔不在者ニシテ壽命ヲ推定シ一定ノ壽命
ニ達スル時ハ之レヲ死亡者ト看做ス判度行ハ其生死不分明ノ状態ガ
一定ノ期間継続スル時ハ當時之レヲ死亡者ト看做ス判度ヲ生シ東近
以て世帯リ不在者ガ一定ノ期間生死不明ナル時ハ裁判所ノ宣告ヨリ死亡

者ト看做又制度行ハ民モ之ヲモ之レニ従フ

第三 失踪宣告ノ要件

裁判所が失踪ノ宣告ヲスルハ左ノ条件ヲ要ス(第三十條)

一 不在者ノ生死ハ分明ナラザルヲ

二 生死不明ノ状態ガ一定ノ期間継続スルヲ以テ期間ヲ失踪期

間ト稱ス普通通下場合モ身ニシテ特別ノ場合三年ナリ特別ノ場

合ハ八載地ニシテ沈没スル船中ナリ其他死亡ノ原因タルキ奇

難ニ相違シタル場合ヲ云フ以テ危難ハ生命危候ヲ伴フ一要ニシテ

例バ火災水災地震汽車ノテンプクノ如シ失踪期間ハ普通通場合

ニ於テ八生不死ノ時ナリタル時最後ノ音信ノ時ヨリ之レヲ起算スルモ

特別ノ場合ニ於テハ死亡ノ原因タル危難ノ止ニホハ去リタル後ヨリ之ヲ

起算ス

了利害関係人ヲ清ル下ル

利害関係人ハ例バ不在者ノ相続人配偶者受遺者財産管理人

人トシテ之等ノ権利者モ失踪宣告ニ付テ利害関係人トシテ

權利者ト失踪ノ宣告ヲ請求スルノ時ハ其ノ不在者ノ財産管理人

財産保護ノ方設備タル共失踪ノ宣告ヲ求ム不在者ノ死亡者トシテ

否ヤハ之レヲ利害関係人ニ任シ口實ハ之レニ干渉スル用ナク之レヨリ

要件備ル時ハ失踪ノ宣告ヲ求レ其ノ相続ハ干渉法第七十條以下ニ要

ス(了訴訟)

第四 失踪宣告ノ効力

失踪宣告ノ効力ハ不在者ノ死亡者ト看做スルヲ第一世系第八期ニ死亡シ

タルモノト看做スルヲ故ニ且宣告アリタル時ハ世系第三十條ヨリ其ノ宣告ノ取

消ルヲハ不在者生存ノ反證トモ一般ニテ不在者ノ死亡者トシテ而シテ

不在者ノ死亡者ト看做スルヨリ不在者ノ財産及身分上ノ干渉ニ最

御善ク及シ財産ハ相続人ヨリ婚姻ハ解除トナル

ノ失踪宣告ノ効力ハ何時ヨリ其妻及子撫言セバ失踪者何時ヨリ

死亡者ト看做ルヤ之レニ付テハ三説ナリ第一説ハ失踪宣告ノ時亦ハ

其宣告ノ確定スル時ヨリ死亡ノ時トス之レ一見理由アルニ似タル共果

トテ而シテ死亡時期ハ失踪宣告ノ請求者ノ意思ニヨリテ左右スル

其裁判所違速言リテ其時期ヲ過スル不ヨリ結果存生否其元死
亡時期ヲ一定問題トシテ我裁判官ノ認定ニ任スベシトモテ而共
以て説ハ失踪宣告ヲスニ失踪期間ハ必要トシテ法律ノ精神ニ及ス
キ三説ハ法定ノ失踪期間満了トモテ死亡ノ由トス之レヨリハ失
踪ノ宣告ヨリ數十年ナリ三週テ死亡者ト看做ス丁アル為權利ノ係
ヲ安定ナラシムル際審ナレトモ其其ノ説ニ對スル不ヨリ難ヲカレ丁
得ルノニテ大理論ニ於テモ非ヨリ故ニ我民法ハ之レニ從テ(業世一義)
然テ相續ハ何時於テ開始シ婚姻ハ何時ヨリテ解消シ生命保換金
遺贈備身ハ以テ何時於テ之レニ付ル丁テ得失踪ノ宣告アルトモ不在
者ハ死亡者ト看做スト長モ之カ為メ不在者ノ權利能力ヲ剝奪ス
ルモテラズ若シ失踪期間経過後尚不在者生存シ法律行為ヲナシ
若シバ不法行為ヲナシタル時ハ已テ其ノ効力アリ要スルニ失踪宣告ハ不
在者ヲトシ絶体ニ死亡セラルモト看做ス旨ニテアラス

第四 失踪宣告ノ取消

50 失踪ノ宣告ハ又証言リテ其生存ノ効力ヲ失フ丁ナレトモ其元死ノ

宣告ヲウケタルモカ實際生存スル丁ノ証明アルトモハ失踪期間満了ノ時
ト異リタル時ニ死亡セタル丁ノ又証言リ時ハ已ニナシ失踪ノ宣告ヲ
其ノ効力ヲ保有セシムベキ理由ナシ故ニ斯ル場合ニ於テハ裁判所本人
亦利害ノ係人ノ請求ニヨリ其ノ由ニテ取消ス丁テ要ス(三三系一説)
失踪宣告ノ取消ノ効力ハ古往三週ヨリ一宣告ナカレモト支丁ナリ即チ
失踪者ノ身分ニテ財產上ノ法律關係ハ取消ヨリテ全然現狀ニ回復
ス失踪者ノ生存セタルカ否失踪宣告取消サレタル時ハ最初ヨリ相續ハ用
始メ婚姻ハ解消亦失踪期間満了ノ時ト異リテ死亡セタルカ否失踪
宣告取消サレタル時ハ眞實死亡ノ時ニ於テ相續開始シ婚姻解消
シアルトナレ而共左ノ例外アリ

ノ失踪宣告ヲ其取消後ヨリ再宣告ヲ以テナシタル行為ハ宣告ヲ取消
ルニモ其効力ヲ喪セズ(三三系一説) 例ニ失踪ノ宣告ニヨリテ財產
ヲ得タルモカ失踪者ノ生存セタル丁ノ知ラズシテ其ノ財產ヲ他人ニ讓渡
シ亦失踪者ノ既高者カ失踪者ノ生存セタル丁ノ知ラズシテ再婚ナス
カ如レ之等ノ行為ハ失踪ノ宣告ニ阻害セズ然レ効力ヲ保持シ先効

トナルトナレ善意 其ハ約ニ對シテハ其ノ一ツ丁者相立カ亦單純的行為ニ付
ハ其ノ行為者ガ失 其ノ任有ヲ知ラズ亦失踪期間満了ノ時ト異ナル
時ニ死亡セラルトナリ知レハルトナリヨ云フ善意ニ惡意ハ行為ノ時ニ於テ之ヲ決
又モトク

ニ失踪ノ宣告ニ付テハ財產ヲ得タルモ人現ニ利無クシテ限ニ應ニ於テノ邊
還ノ義務ヲ負フ(其ノ一) 失踪者ノ相續人受還者等ノ如ク失
踪者ノ宣告ニ依リテ財產ヲ得タルモ人後日宣告取消ノ時一旦取得ノ多
ク權利ヲ失ハ其財產ヲ返還セザルハカラス(其ノ二) 現ニ利有ルモ一トナラズ巴
ニ處テ多ク物ヲ付テモ之ヲ返還セザルハカラス(其ノ三) 現ニ利有ルモ一トナラズ巴
ルルノ限ニ付テハ民法ハ法律ニ失踪宣告取消ノ時ニ於テ現存タル利
年ノニテ返還スベキモノトナリ(其ノ四) 規定ハ失踪ノ宣告ニ付テハ善意ニ
テ財產ヲ取得シタルモノニ限リ摘要アリ惡意ノ財產取得者ハ其ノ四
条ニ則リ取得タル財產ヲ返還スルモノトス亦上述ノ規定ニヨリ返還ノ積ム
ヲ固ク亦失踪ノ宣告ニ依リテ直接ニ財產ヲ得タルモノニ限リ其財產收
得者ヨリ宣告取消後ノ其ノ善意ノ財產ヲ云ハレケルモノハ其ノ行為ノ

三時善意ナリシ時ハ返還ノ義務ヲ負フ 其ノ惡意ナリシ時ハ其七
百零九ニ依リ返還ノ義務ヲ負フ

上 終

大正十年十月二十日印刷
大正十年十月二十日發行

(非賣品)

印刷人 山下龜戶吾妻町六八三
山崎 西司

發行所 山下吾妻町六八三
山崎 西司

14
668

終

